

エピソード66

特別支援学級への転籍を決めた お母さんの気持ちの移り変わり

このエピソードでは、教職経験5年目、28歳男性の先生の経験を紹介します。



ジュリさん
教師を目指して勉強中



先生は、2年生の勝君の担任をされているそうです。

1年生の中頃から話が聞けない、友達に暴力的などの行動が目立ってきました。

でも、1年生だったのももう少ししたら落ち着いてきてくれるだろうと期待して日々を過ごしていましたが、学力の面ではどんどん下降していく感じがありました。



先生は、勝君のことを心配しているようですが、そのことを保護者にお伝えしたのですか？

電話では何度となくお話をしていたのですが、春の懇談以来面談していなかったお母さんと直接会ってお話をして、お母さんと担任で行動のチェックを試みることにしました。

私は勝君の特性はわかっていたことですが、お母さんとそれぞれやるのがいいのではないかと特別支援教育コーディネーターにアドバイスされたのです。

お母さんも私も行動面では衝動性が、学習面では計算と読み書きが気になっているとの結果でした。

冬休みが終わったらもう少し詳しく話をしましょうということだったのですが、お母さんは離婚して一人で子育てしていて、お母さんの体調が悪くなり、頓挫してしまいました。



それは、大変ですね。

実はお母さんは心の病に罹っていたのでした。そのことはその時まで知らなかったので、お母さんは一人で苦しい日々だったのだと思いました。

どうしようかと思いつながら、勝君の行動はエスカレートしていました。お母さんは勝君のことで相談や病院へ行くことにも抵抗があったようで、私と一緒に考えてくれていたコーディネーターも無理はできないね、と思案していました。



2年生に進級し4月に入って、家庭でも困っていることを担任だけでなく、コーディネーターがお母さんから丁寧に聞いてくれていました。

トラブルが続いたこともあり、お母さんは「特別支援学級に入れます。その方が勝のためになる。」と話してくれました。お母さんは幼稚園時代から悩んではいたけれど、特別支援学級への敷居は高かったのだと思います。





先生は、1年間、お母さんの気持ちを慮ってき
たんですね。

この1年近く、私はお母さんの気持ちを考慮しながら過ごして
きた日々がありました。その中で、お母さんは決心された
のかなと思います。

お母さんは気持ちの移り変わりがりながら、ほっとした表
情をされていました。私は、勝君にとって学べる教育環境を
と願いながら、お母さんが転籍を決めたことに少しさびしさ
を感じました。

ジュリさんの気づき



- 保護者が転籍を選択することは、担任の先生にとって、寂しさを感じることもあるんだなと思いました。
- 特別支援教育コーディネーターと一緒に保護者とかかわること、担任の先生は子どもと保護者に心の余裕をもってかかわれるようになりますね。

お・し・ま・い

若い先生の保護者支援



ジュリさん

<掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーの経験をもとにした架空のエピソードです。>

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)